



『かながわ団地再生ナビ』にヒントあり。(仮)



「康寿命延伸のためのデータの蓄積と活用」などが考えられます。

昨年11月に訪問した兵庫県三木市では、こうしたサービスを提供するために必要な「活動場所」「情報ICT」「人材」「移手段」等のサービス基盤の構築を、企業の視点を取り入れながら進めています。住民のボランティア活動のみに支えられた取組みでは難しい、経済的に成立し永続する仕組みをつくるためです。

先進事例をわかりやすく

高度経済成長期を中心に大都市郊外に建設された住宅団地、いわゆるニュータウンは集合住宅、戸建て住宅を問わず、その多くがゆとりある建物配置や豊かな緑に恵まれた良好な住宅地として、成熟期を迎えています。

しかし、多くのニュータウンでは少子高齢化の進展により、地域の活力や生活の利便性が低下しているという現実があります。高齢者がいつまでも健康に住み続けられる団地、若年層が継続的に流入し住み続けてくれる団地をつくるためには、その団地特有の強みと弱みを分析し、将来のあるべき姿とやるべき取組みを考えることが大切です。

企業の視点を取り入れる

団地の魅力を高めるための取組みとしては、たとえば、「アクティブシニアが子育て世帯を手助けする地域互助」「育児中、介護中の人や高齢者でも働きやすい短時間労働を可能にするクラウドソーシングやワークスペースの提供」「車を運転しなくても外出や買い物を可能にする移動支援や配達サービス」「若年層の移住や高齢者の住替え支援」「コミュニティの核となる居場所の確保」「健

私は昨年12月の県議会本会議で、このような先進的な事例を県内の団地住民や行政職員、企業等に積極的に紹介することを提案。県は『多世代居住コミュニティ推進ハンドブック』の改訂を約束しましたが、題名も長過ぎます(笑)。『かながわ団地再生ナビ』はいかがと申し上げました。

その他、住民が自らの地域の特性に気づき、課題を把握するためのワークシートの作成や、専門家による継続的なサポートなどを求めています。



兵庫県の『ニュータウン再生ガイドライン』の「団地カルテ」。ワークシート作成の参考になります。

信号機や

横断歩道のための

予算を増やします！

横浜市18区で高齢者人口が最も多い旭区。障がいのある方も増える中で、安心して歩行できる交通環境を作ることが急務です。

これまで私は、視覚障がい者のための音響式信号機の設置や、横断



ペイントの剥げた横断歩道の補修も急務

歩道の青信号の時間延長、ペイントの剥げた横断歩道の補修などに取組んでまいりましたが、音響式信号機や高齢者等のための青延長押しボタン式信号機については要望の1〜2割程度の設置にとどまり、摩耗により視認しにくくなっている横断歩道も数多く見受けられます。

これは、信号機や横断歩道など「交通安全施設」の整備のための予算が不足していることが原因です。

そこで、公明党県議団では昨年10月に行われた決算特別委員会における私の質疑をもとに「交通安全施設整備費の増額を求める要望」を作成し、12月21日、黒岩知事と面会の上、提出いたしました。

その結果、平成31年度当初予算



における交通安全施設整備費は37億4401万8千円と、30年度と比べ約4億5千万円あまりの増額となりました。必要な個所を精査の上、適切な整備を求めていきます。

約4億5千万円
の増額

32.9億円
→37.4億円



障がい者や高齢者にやさしい街に

左近山地区では私は視覚障がい者の方とともに街を歩き、危険な個所をリストアップ。警察や土木事務所、団地の管理組合からご協力をいただき、点字ブロックや音響式信号機(高齢者がボタンを押すと青の時間が延長される機能を付加したもの)を設置することができました。



押しボタンボックス(左近山)